（1）　明治20年創刊　第35227号（第3種郵便物認可）　THE JOMO SHIMBUN　1993年（平成5年）3月16日（火曜日）（日刊）

上毛新聞
発行所（〒371）前橋市市町1－50－21
上毛新聞社
電話 前橋(0272)51－4311(代表)
夜間・休日電話
(編集) 4343・4344
(広告・販売・事業) 4392
(出版) 4347
(制作) 4349 (発送) 4363
© 上毛新聞社 1993

日産の宇宙航空部門

富岡市に移転計画

都内から生産拠点

用地は50ヘクタール見込む

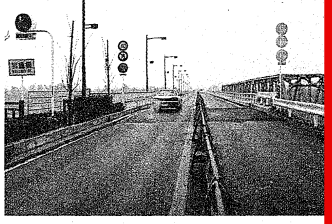
日産自動車は十五日、宇宙航空部門の生産拠点を一九九六年ごろから順次、現在の狭窄事業所（東京都彩形並区）から富岡市に移転する計画を明らかにした。移転が計画されているのは同市南木・桑原地区で、約五十ヘクタールの用地が見込まれている。県、市には一年前から通出の意向を打診していたという。

狭窄事業所の周辺の岩石化が進んでいる上、周辺の市街化の進ぺ、市街地内の工場のうち、四つは戦前に造られたという。

「市活性化へ歓迎」

日産自動車の移転計画に対し、広本康二・富岡市長は「事業主体が県企業局なので、正式に管理者から通達がない限り引コメントできない」としながらも、「事業とすれば新しい雇用の場ができるわけで、市の活性化につながり歓迎すべきこと」と話している。

一方、広瀬玉雄・県企業局理者は「富岡進出の意向はあったが、そんな話が入ったと聞いになっているとは受け止めていなかった」と話が非公式ながら明らかにした。移転が計画されれば、本県のネームバリュー段階で、日産自動車とすり合わせをしたい」としている。土地買収のめどがついたら、



県議会・常任委

地方拠点法で県央10市町村

新年度に連絡協

リゾート構想　景気低迷で事業停滞

県議会（丹羽雄哉議長）は十五、十六の両日、常任委員会を開き、平成五年度一般会計当初予算案を中心に、総務、厚生、農政、土木、農林の各部の予算案を審議した。

北川県知事は、新年度の県政運営に関連して、県央10市町村の首長と「新年度の市町村間の連絡協議会」を設置し、地方拠点都市指定制度の活用などを協議を進めていく考えを明らかにした。中村紀雄氏（自民）の質問に答えた。

地方拠点都市は建設省、国土庁などと協議の上、地域が決定し、全国三十二地域が候補。また、「べんがりフレッシュ高原リゾート構想」に盛り込まれた四十四事業の進ちょく状況について、福島新県知事は、完成が十一月に迫る高原リゾートの建設、「ぐんまリゾート推進室」を設置する考えを明らかにした。

総合企画部長答弁では、国が「ぐんまリゾート構想」を推進するとの方針を示したことを受け、新年度に市町村の自主的な取り組みを促す拠点づくりの基本的な考え方を明らかにした。

基本計画のたたき台として素案づくりに着手する方針。

検討委員会を設置し、各市町村の検討を踏まえ、年度内に作成する。

基本計画は今後、各市町村の検討を踏まえ、年度内に作成する。

拠点都市づくりの基本的な考え方を明らかにした。中村紀雄氏（自民）の質問に答えた。

佐波郡四町村（の指定近くまでは今後の指定を機に、各市町村の助成策の組織した従来の準備組織を発展、前橋市事務局を設置して、同課で事務局を担当する。

出入の法規は理由がないとして申し出を棄却。告示するとともに県知事に通告した。

糸井氏は「二月七日の開票は公開できるはずだ」と主張していたが、糸井氏の代理人弁護士は「一応、公開を申入れしたが、同市議選への審査申立て を行うが持者と検討する」とした。

同市議選で、糸井氏の得票は二十一票自治選挙区の三百八十六票と驚異的な得票差だった。

県警1次異動

1514面へ

公立高校合格者名を特集

4329～面

全日制公立高校

2次募集は22校585人

藤岡女など女子伝統校で目立つ

県教委は十五日、全日制公立高校の合格者を発表した。が、二十八校で合わせて五百九十五人の定員割れが生じた。伊勢崎市女が過去五年間で初めて十人の定員割れを出すなど、合格者が募集人員に満たない高校が女子の公立高校で続出。受験生の女子校離れを示唆がせた。また、郡部の周辺校でも定員割れが目立ち、特色ある高校づくりの公立高校で浮き彫りにした。県教委は「こうした定員割れ対策と合格者の救済制度として、本年度から二次募集制度を実施。定員が大人以上不足した五百二十二校で五百八十五人を募集する。

県教委は、これらの高校で募集を行う。これらの高校で募集を行う。これらの高校で募集を行う。